

せいの看護学会 News Letter

Contents ◆理事長挨拶 ◆第12回せいの看護学会学術集会を終えて
◆学会の様子と総会報告

◆理事長挨拶 せいの看護学会理事長 藤本栄子

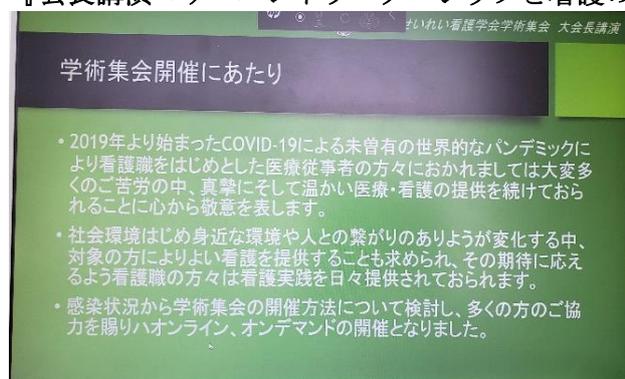
第12回の開催メインテーマ サーバントリーダーシップ
専門的で創造的な看護実践へ



第12回せいの看護学会学術集会は、榎原理恵学術集会大会長（聖隷クリストファー大学）のもと開催されました。メインテーマに掲げられた「サーバントリーダーシップ」について、その基盤にリーダーの「相手に仕える」「奉仕の心を持って導く」ことが臨床の具体的な実践場面で示され、大変感銘を受けました。聖隷の先人達は、聖隷の意味する「聖なる神の奴隷」として、まさに僕となって結核患者さん方へ無償の愛を注ぎ、実践してきた歴史があります。仕えることで、どのように他者や組織を導いていくのか、新たな枠組みの中で今の時代に求められるリーダーシップについて語られ、意味深いものでした。自らが率先して仕えつつ、チームを導くというサーバントリーダーシップの考え方に高い関心が寄せられました。（藤本栄子）

◆第12回せいの看護学会学術集会 大会長 榎原理恵
（聖隷クリストファー大学 看護学部教授）

『会長講演「サーバントリーダーシップと看護の親和性」』



第12回せいの看護学会学術集会では【サーバントリーダーシップ 専門的で創造的な看護実践へ】を大会テーマとしました。サーバントリーダーシップは「リーダーである人はまず相手に奉仕し、その後相手を導くものである、というリーダーシップ哲学」であるとされています。看護対象の背景も複雑になり、社会環境や求められる看護の役割も多様になってきました。サーバントリーダーシップに必要な10の資質には、看護基礎教育から培われている看護に求められる資質と通じるものが多く親和性が高いと考えています。（榎原理恵）

◆基調講演 なぜサーバントリーダーシップが求められるか
（山内英子氏 聖路加国際病院 副院長）

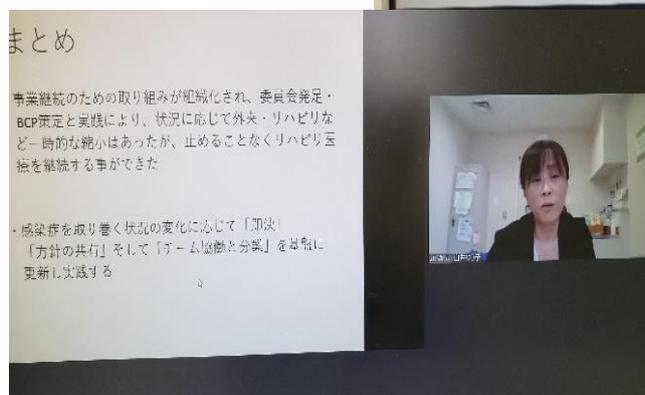
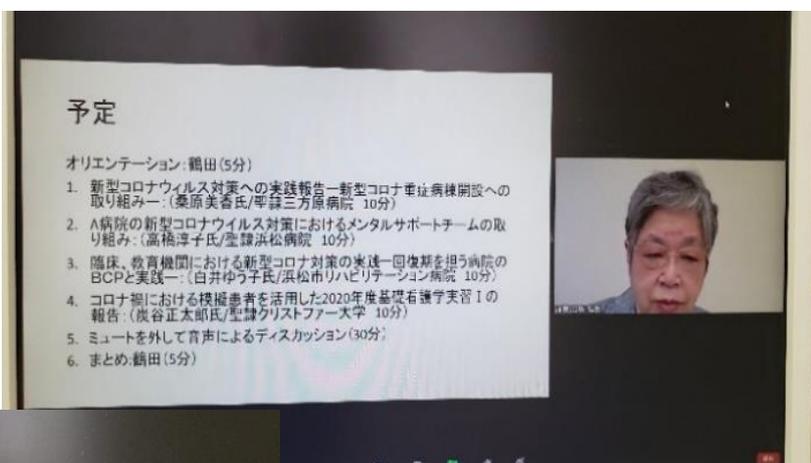


医師である山内先生からは組織におけるサーバントリーダーシップ、患者さんとのサーバントリーダーシップ、次世代へのサーバントリーダーシップという3つの観点からリーダーシップについてお話いただきました。「患者らしく、ではなくあなたらしく」ということを大切にしながら日々の医療に携わっておられる活動や、次世代へのメッセージを多くいただきました。（榎原理恵）

◆COVID-19 対策実践報告会



報告者 桑原美香（聖隷三方原病院）
 報告者 高橋淳子（聖隷浜松病院）
 報告者 白井ゆう子（浜松市リハビリテーション病院）
 報告者 炭谷正太郎（聖隷クリストファー大学）
 座長 鶴田恵子（聖隷クリストファー大学 教授）



2020年1月14日にWHOは、中国の原因不明の肺炎の患者から新型のコロナウイルスが検出されたことを確認したと明らかにした。1月30日にWHOは「国際的な緊急事態」を宣言し、11日に「COVID-19」と名付ける。2月3日に乗客の感染が確認されたクルーズ船が横浜港に入港。2月27日に全国のすべての小中高校に臨時休校要請の考えを公表。4月7日に7都道府県に緊急事態宣言、16日に全国に拡大、5月31日まで延長した。感染爆発の第5波のさなかに開催された「第12回せいいい看護学会学術集会」で、急遽[COVID-19 対策実践報告会を開催することになった。発表順ではなく時系列順に紙面で報告する。

聖隷浜松病院のリエゾン精神看護専門看護師の高橋さんは、2020年4月24日に多職種で構成された「メンタルサポートチームを立ち上げ、取り組みについて具体的に報告された。浜松市リハビリテーション病院看護部の白井さんは、2020年4月に病院としてBCP（事業継続計画）を策定し、「新型コロナウイルス会議」を開催し決定や実施・周知に取り組んだことが報告された。大学教員の炭谷さんは、2021年2月に病院に実習いけない学生に模擬患者を活用して、2020年度基礎看護学実習1について報告された。聖隷三方原病院の急性・重症患者看護専門看護師の桑原さんは、2021年4月に急遽、新型コロナ重症病棟を開設するために、集結された集中治療認定看護師1名、5年目以上の看護師10名の計12名が課題を明確にした取り組みについて報告された。

時系列に読み込むと、緊急事態の早い時期に取り組まれていることが示され、冷静に取り組んだ4人の発表は、実践に根差した具体的な内容であり、学会参加者に感動を呼び起こした。COVID-19で体験した実践を発表することから記録に残す重要性と病院間の情報交換の場の必要性を再認識することができた。

（鶴田恵子）

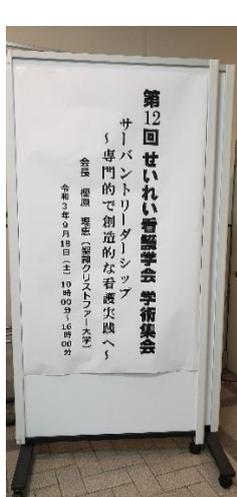
「サーバントリーダーシップ
こんなことから始めよう」



★シンポジスト
森本敏子
春日美千代
赤石ゆかり
理事長と共に

本シンポジウムでは、サーバントリーダーシップ研修を組織で受け入れてくださった皆さんをシンポジストとしてお迎えしました。組織の特徴を踏まえた研修受け入れの経緯、机上の空論ではなく、サーバントリーダーシップを身近なところから取り入れることで、管理者のありようの変化やスタッフへの影響など参加者の行動変容などについてご発表いただきました。それぞれの施設の対象者の特徴も異なり、規模も異なります。3人のシンポジストの方のご発表から、それぞれの病院、施設、立場においてどんなことならはじめるかのヒントを得ていただけたように思います。ご発表の後には会場からの質疑もあり、活発なディスカッションができました。
(座長 榎原理恵)

◆演題発表 (口演5演題、誌上発表2演題)



◆総会

今年度の総会は新型コロナウイルス感染症の拡大から委任状または議決書での開催となり、2021年10月8日12時を締切にしておりました、書面決議につきまして10月12日現在、77名の審議事項の議決可のご連絡を受け取っております。2021年7月31日現在の会員数295名で、会則第五章第22条3の、「総会は会員の5分の1以上の出席または委任状で成立とする」ことから、42名以上を超えており議案はすべて承認されました。

【企画委員】

前回に続き第12回の学術集会もWebでの開催となりました。企画委員も約10ヶ月にわたり、準備を進めて参りましたが、感染状況に合わせて開催方法の変更を余儀なくされました。運営では不慣れな点も多く、参加者のみなさまにもご迷惑をおかけしたと思います。まずは無事に開催できたこと、みなさまに感謝申し上げます。

今回は、「サーバントリーダーシップ—専門的で創造的な看護実践—」のテーマのもと、一般演題の発表、会長講演、基調講演、教育講演のほか、学術集会企画として、①病院、大学におけるCOVID-19対策の実践報告会、②サーバントリーダーシップの実践に関するシンポジウム、③これから看護研究を始める方を対象にした「研究を育てよう」、④共催の同窓会とともに卒業生のメッセージを募った「あつまれ、卒業生」の4つを企画いたしました。当日は、オンラインにてたいへん多くの方々にご参加いただき、交流を深めることができたと思います。ありがとうございました。(佐久間佐織)

- ◆学会誌編集委員会：投稿をお待ちしています。
- ◆広報委員会：せいい看護学会を広くお知らせするためにNewsLettrNo5を発行しました。
- ◆事務局から会費納入のお知らせ：
年会費は5000円です。
過去の納入がお済でない方は本年度分と合わせて納入をお願いします。
入会希望の方はせいい看護学会ホームページをご参照ください。

<http://www.seirei-sons.com>

- ◆第13回学術集会のお知らせ：2022年9月10日（土曜日）
学術集会大会長：聖隷三方原病院 総看護部長 松下君代氏
テーマ：『地域社会を守る 看護職の挑戦～コロナ渦でみせた看護の力』
場 所： 聖隷クリストファー大学
演題募集：2022年3月22日（火）～5月16日（月）
http://www.seirei-sons.com/d13th_annai2.html
応募資格：せいい看護学会会員であること
(非会員は演題応募までに入会をお願いします)